

# 日本山岳文化学会第8回大会開催案内

## 山は夢とロマンと学びの世界 - そして21世紀は新たな出会いから

本学会は人文、社会、環境、自然科学などのあらゆる分野にわたり、科学的見地に立ち広く山岳に関連する諸問題について学問的解明、分析、研究を行っています。また、得られた研究成果を統合し、地球の局地的気候変動に及ぼす山岳の影響、地球温暖化などによる自然環境の変化、地殻変動、自然破壊、植生変化、災害予知と防護、人間生活と山岳、山岳地域の観光開発、科学的見地に基づく登山者の安全の研究などを通して、総合的な山岳研究に資していくことを目指しています。そして、これらの成果は年1回開催する大会において発表するとともに、論集や機関誌「山岳文化」、山岳叢書等において報告しています。

第8回大会は、下記のとおり、本学会の目的に基づく多彩な一般口演に加え、研究テーマの紹介や話題提供の場としてのショートスピーチも行います。また、シンポジウムでは、30数年前に実践された「世界三大峰への特色ある挑戦」として「社会人山岳会混成チーム[世界三大峰挑戦の意義と背景]」をテーマに、この時代のヒマラヤ登山の一面を研究発表することになっています。

山岳に関する広範囲な事項に興味を持ち、関連する分野の解明研究を志す方々、および登山、スキーなどの山岳に関連するスポーツ科学の探求に興味を持つ多くの方々の本大会への参加を歓迎します。

**日 時** 2010年11月27日(土) 9時～20時

2010年11月28日(日) 9時～12時

**会 場** 東京慈恵会医科大学・高木会館2号館南講堂(東京都港区西新橋3-19-18)

**参加費** 3,500円(28日のみ参加の場合は無料)

## プログラム概要

### 11月27日(土)

#### 9:00～10:40 セッション

- 9:00～9:20 絵図に観る吉田口・村山口の富士登拝の違い(山岳宗教・民俗分科会: 森山安次)
- 9:20～9:40 秩父宝登山の狼信仰 - オタキアゲと七日会の考察を通して - (武蔵大学: 西村敏也)
- 9:40～10:00 日本陸軍とロッククライミング(徳永 智)
- 10:00～10:20 庶民派クライマー・北條理一の軌跡～謎に包まれたその実像を追う～(登山史分科会: 砂田定夫)
- 10:20～10:40 丹沢開発と道路開設に盡した... 柏木幹太父子の功績 1891.12.16-1942.8.4 (登山史分科会: 相原 守)

#### 10:45～12:05 セッション

- 10:45～11:05 日本のヒマラヤ登山の変遷(ヒマラヤ登山分科会: 伊東 満)
- 11:05～11:25 ヒマラヤにおける雪崩遭難事故(日本ヒマラヤ協会: 中川 裕)
- 11:25～11:45 日本人による冬季8,000m峰登山の系譜(日本ヒマラヤ協会: 尾形好雄)
- 11:45～12:05 日本のヒマラヤ登山と環境問題[takein takeout 運動の普及](ヒマラヤ登山分科会: 山森欣一)

13:00~14:00 招請講演

## 登山家のヒマラヤ地域における支援活動

アルパインガイド長谷川事務所：長谷川昌美

14:05~15:45 セッション

- 14:05~14:25 スペインにおける氷河地形（東大山の会：中村純二）
- 14:25~14:45 生物多様性保全の問題点 - 飛騨地方の国有林を事例に - （乗鞍岳と飛騨の自然を考える会：小野木三郎）
- 14:45~15:05 日本における越年性残雪（雪渓）の分布と氷河地形の関係について（自然・環境保護分科会：小疇 尚）
- 15:05~15:25 南アルプス、北岳周辺の氷河地形（明治大学大学院：小久保裕介）
- 15:25~15:45 歩行技術とトレーニング、その効果（埼玉県勤労者山岳連盟：矢崎辰雄）

15:50~17:10 セッション

- 15:50~16:10 鞍馬山の「自然学」について - 「生きもの・仏・ヒト」の風景 - （京都府立大学山岳会：塚本圭一）
- 16:10~16:30 深田久弥と山岳俳句（文学 + 芸術分科会：高澤光雄）
- 16:30~16:50 登山道の管理責任（弁護士：溝手康史）
- 16:50~17:10 山岳遭難史にみるリーダー意識の変遷（ ） - 1970年代、社会人山岳会または同人グループの遭難報告より - （遭難分科会：野村 仁）

17:15~18:15 ショートスピーチ

- 17:15~17:25 石崎光瑤のヒマラヤ登山（文学 + 芸術分科会：平田清志）
- 17:25~17:35 6000m峰短期登頂の医学的検証 - 三国交流学生玉珠峰(6179m)登山に参加して - （山岳医学医療分科会：野口いづみ）
- 17:35~17:45 地理学の教材としての高所と体調の関係（青山学院大学：戸田真夏）
- 17:45~17:55 ネパールにおけるエコツーリズム - ポカラ・ツシタトラベルを例に - （自然・環境保護分科会：谷地 隆）
- 17:55~18:05 登山家研究分科会活動報告（登山家研究分科会：酒井國光）
- 18:05~18:15 ウッドシャフトピッケルの歴史 - その1 - （ウッドシャフトピッケル研究分科会：小澤観一）

18:30~20:00 懇親会（会場：リーベ）【会費4,000円】

11月28日（日）

9:00~12:00 シンポジウム

## 社会人山岳会混成チーム『世界三大峰挑戦の意義と背景』

主管：ヒマラヤ登山分科会

- 9:00~9:20 シンポジウムの目的（尾形好雄）
- 9:20~10:05 R C C 隊 エベレスト南西壁1973年秋（須田義信）
- 10:05~10:50 日山協隊 K2南東稜（K2第二登）1977年夏（重廣恒夫）
- 10:55~11:40 H A J 隊 カンチェンジュンガ縦走1981年春（山森欣一）
- 11:40~12:00 シンポジウムのまとめ（八木原園明）